

サークルを始めるきっかけ

中川 レ・コード館開館前からサークル「1枚のレコード」の会員として少し活動していました。その後、劇団を立ち上げる話があり、お世話になった方や新冠町に恩返しをしたいという気持ちで活動を始めました。

上居 私は、レ・コード館開館前に、中学校の先生など会員10名程の合唱サークルに参加していました。

柿落としの公演に皆で参加し、公演が終わったあとも継続して活動したいという話しになり、合唱団を立ち上げて20年が経過しました。



「飛翔にいかっぶ」の一幕 (広報より)

中川 柿落としの公演では、たくさんの方が舞台に関わっていましたが、徐々に少なくなっていました。

やはり、この様な活動が好きではないと続けられないと思います。一方で、舞台作りは大変という観念的な思いがあり、最初の一步を踏み出せないということもあると思います。

レ・コード館へのリクエスト

武田 昨年11月に、札幌市白石区に「えほん図書館」という施設が新しくオープンしました。

普通の図書館は、静かに読書をする場所ですが、ここは声を出して絵本を読むことができ、子どもに読み聞かせをしたり、子どもどうして絵本の読み合いもできるようにというコンセプトで作られました。開館してまだ1年程ですが、多くの利用があるそうです。

図書プラザの中にも「おはなしの部屋」という仕切られた部屋がありますが、それでも、自分たちが読み聞かせをするときは、周りに気を使いつつながら読み聞かせをしています。

今後、施設の改修をすることがあれば、えほん図書館の様なスペースができるのではないかと感じます。

また、冬のお話し会では、シアターを利用させてもらっていますが、椅子の背もたれが高く、子どもを対象とした事業をする時には使いづらさを感じます。

中川 町民ホールの環境は申し分ないのですが、公演を行うと舞台美術などを制作するので、それらを保管できる倉庫があると嬉しいですね。

上居 実際には難しいと思いますが、舞台上に反響板があると少ないメンバーでも合唱ができるので嬉しいです。浦河の総合文化会館の反響板の設備が素晴らしいと思います。

上居 合唱団も新しく加入するメンバーが少なく、今も設立メンバーが中心になり活動しています。以前は、男性メンバーもいて混声合唱団でしたが、今は女性だけになってしまいました。

そのような中でも、歴代の中学校の音楽の先生が会員になり活動してくれていることはとてもありがたいこととですし、役場の若い方も一緒に活動してくれているのが嬉しいです。

中川 劇団の子どもたちは20名おりますが、昨年、まとめ役の高校生が4名卒業したので今は練習が大変です。

劇団の卒業生はこれまでに80名程おり、彼らが指導に当たることができると助かるのですが、この辺りでは働く場所が少なく町外に出してしまうので、そのような体制が作れません。

しかし、新しく会員となった子どもたちが頑張っているのも、どうにかうまく回していきたいと思っています。

高瀬 文化協会は、脱退する団体、新規加入する団体がそれぞれあり、数は保たれていますが、最近では、会員が高齢となり活動を継続できないという団体が見受けられます。

サークルだけではなく、その他のボランティア団体や青年団体なども会員の固定化や後継者不足などの問題を抱えているのかもしれないですね。

後藤 会員が増えない要因の一つに、団体に入るきっかけが無いということもあるかもしれません。

高瀬 自主企画委員会主催で来年3月に

未来への目標

高瀬 現実的な話しとして、レ・コード館は雨漏りがあるなど老朽化しているという話しを聴くので、20年後も今と同じように施設が維持されて、多くの人に利用されていることを願いますし、これを次の世代の人たちに繋いでいきたいと思っています。

文化協会も現在の状況を見る限りでは、サークルは減少していくと思いますが、しかし、活動をやめる団体があっても、新規に加入する団体があれば地域の文化活動は続いていきます。

今年の文化祭も例年より来場者が増加したとのことなので、この状況が少しずつ広がれば良いと思います。

中川 劇団を継続するのが大変なので「ここで止める」というのは簡単ですが、子どもたちを見てみると、そのような無責任なことはできません。

今年も新しい団員が入りましたので子どもたちのためにも、早く後継者を作らなければと思います。

レ・コード館があるからこそ、次代を支える人たちが出て、組織を継続してけると嬉しいと思います。

後藤 自主企画委員会は、予算的に厳しい面もありますが、今後も様々な音楽事業を開いていきたいと思っています。

親子向けの事業も含め、ニーズを見ながら企画していきたいと思っています。新冠町のように町が補助金を出してホール事業を応援するということは、今では本当に珍しいことなので、自

クロマニヨンスのライブが開かれますが、昨年は山崎まさよしのライブもあり、こういった若者向けのコンサートがあると、自主企画の活動にも興味が出てくると思います。

後藤 興味のある人、イベント企画に関わりたい人はいると思いますが、民間企業の人は、実際には時間がとれないという問題もあると思います。

しかしながら、何もせず黙っているだけでは活動が広がらないので、魅力ある事業を展開し、活動を広げていくことが必要ですね。

武田 びつくり箱も会員は20名います。が、実際に集まれる人は15名前後です。

私たちの活動はボランティアなので、どうしても仕事や家庭が優先になってしまいます。ですから、活動は動ける人、できる人で分担しているというのが現状です。

上居 どの団体も会員の固定化という問題は同じですね。会員を増やすことが解決につながると思いますが、魅力ある活動を行うというのも難しいのが現実ですね。

後藤 団体には色々な人がいて、普通に生活していれば知り合えない人がたくさんいますので、地域や職業を超えて繋がることも魅力だと思います。

中川 以前は、地域にも役場にもまちづくりをしよう、まちを盛り上げようという人が多くいましたが、最近では職場が忙しくなったこともあり、地域で活動する人が減ってしまいました。

分たちもできる限りまちづくりのお手伝いしていきたいと思っています。

川原 私が初めてここを知ったのは、15年ほど前の大学生の時、当時、高校の後輩が昭和音大に通っていて、その子が大学との連携事業で新冠に来ると話していて、日高地方にも面白い取り組みをしている町があると思いました。そして、新冠町で働くようになり、手厚い支援や昭和音大や白石高校との連携事業などもあり魅力的なまちだと思いました。

ここ数年は、部員が道の駅のイルミネーションの点灯式の日に演奏をさせていたのですが、この日は色々な事業が行われていて、ピエロがいたり一緒にパンまきに参加したりと楽しい時間を過ごしています。

この様に、地域の人やサークルの方と交流できる機会は、生徒たちにとって貴重な経験になると思いますので、これからも続いていくと嬉しいです。

上居 合唱団は、来年2月のパートナーシップコンサートで、20年ぶりに「飛翔」を歌います。生演奏をバックに思い出の曲を歌えるので、成功できるように練習に励んでいます。

新冠には、このレ・コード館という恵まれた活動の場所・発表の場所があるからこそ、自分たちも活動を頑張ることができていると同時に、ここでサークルや文化活動を頑張っている人たちがいるからこそ、このま

今でも、地域活動を先導している人はいますが、スポーツや文化に限らず活動に関わる人がもっと増えて、皆でまちを盛り上げていくことができれば良いですね。

武田 若い人や家族もたくさんいるので、地域のイベントや行事に皆で参加してもらえると嬉しいです。

高瀬 文化協会では、新しい取り組みとして加盟している文化団体を一覧にしたチラシを作成しています。

地域にこれだけ多くの文化団体があるということを知ってもらうと同時に、団体の体験会などを通して、会員の増加を図りたいと考えています。

武田 新冠だか町には、文化団体やボランティア団体の一覧があります。

連絡先とか活動内容も書かれていて参考になります。新冠も移住者が多くいるので、同じようなものがあると便利だと思います。

上居 最近、子育てサークルがたくさんあり、活発に活動しているように感じます。自分が子育てしている時はほとんど無かったので羨ましいです。

司会 びつくり箱のお話し会なども、毎回多くの親子が集まるので、親子で楽しみたいというニーズがあるのかもしれません。

上居 今、子育てサークルに参加している方々が、自分の子どもが成長した時に何をしたいのかもポイントで、その後もサークルを引き継いでいくような動きがでてくると良いですね。

活動では大変なこともありますが、一人ひとりが生き生きと自分の役割をこなして楽しむことが大事であると思います。新冠は「レ・コードと音楽のまち」であるからこそ、私たちの合唱団も他の文化団体も世代交代をしながら、新しいメンバーと一緒にになり、これからも活動を続けていければ嬉しいです。



10月23日にレ・コード館会議室で行われた座談会の様子。お忙しい中、ご参加いただいたきありがとうございます。

7月号より掲載してきました「レ・コード館開館20周年記念特集」は今月で終わります。記事の作成にあたり、多くの方々に協力いただきました。どうもありがとうございました。